

異文化感受性発達モデル (DMIS) と翻訳技法を接続するモデルの構築 —夏目漱石『こころ』英訳を対象に—

J2200156 矢沢柊

1. 概要

本研究は、夏目漱石の『こころ』第一部を対象に、文化的要素（その文化の生活様式や価値観を含む語や表現）が翻訳を通じ、読者にどのような異文化理解をもたらすのかを明らかにすることを目的とする。従来の翻訳研究では翻訳の方法論については論じられてきたが、技法選択が読者の異文化理解の到達度にどう結びつかを、再現可能な形で示す枠組みは不足していた。

本研究では152件の文化的要素を抽出し、近藤いね子訳とEdwin McClellan訳の計304事例を対象に分析を行った。分析手法として、Molina & Albirの翻訳技法分類と、Bennettの「異文化感受性発達モデル(DMIS)」を統合・再定義した独自のモデルを用い、各翻訳事例を分類し、統計的分析を実施した。分析の結果、多くの翻訳事例が、異文化を自文化の枠組みの中で「差異はない」と解釈させる段階に集中していることが明らかになった。一方で、特定の翻訳技法と異文化理解の段階との間に強い一対一の相関が見られた。具体的には、「要素の削除」は異文化の存在を認識しない段階、「原語の借用」は差異があることは認識するが深い理解には至らない段階、「加筆や注釈」は異文化の視点に立って深く理解する段階を導くことが示された。

小説翻訳では物語への没入感維持のため、読者が自文化の枠組みで処理しやすい技法が優勢になりやすい。反面、深い理解を促す「加筆や注釈」は情報量や視線移動を増やし読書を中断しうるため、「読みやすさ」と「異文化理解」の間にトレードオフが生じる。実際に翻訳者間の比較では、両訳の全体の分布に統計的有意差は認められなかつたが、個別の記述的特徴に注目すると、近藤訳は加筆や注釈で深い理解を促す傾向が見られた一方、McClellan訳は要素を削除し読みやすさを優先するという、トレードオフの使い分けの傾向が見られた。

また、技法上は等価とされる翻訳であっても、実際にはありのまま伝わらず、読者が自文化の枠組みに引き寄せて処理してしまう現象が生じていることが判明した。本論文は、目標とする異文化理解の段階から適切な技法を決定するフレームワークを提示し、翻訳技法を読者の認知状態を調整する機能的なツールとして位置づけるものである。

2. 主要な図表・データ

表 1 翻訳技法 10 分類 (Molina & Albir 2002 を再定義)

翻訳技法	説明	本研究で見られた事例
Borrowing	日本語の語句をそのまま音訳。脚注等の補足説明無し。	銭 (単位) ⇒ sen
Amplification	音訳に加え、詳細な情報やパラフレーズを付加。	袴 ⇒ hakama+脚注で A kind of kilt worn by students.
Calque	原文の語句を構造的に変換。※不自然な言語構造のみ	切腹 ⇒ cut-belly
Literal translation	原文の語句を構造的に変換。※自然な言語構造のみ	都会人 ⇒ town people
Established equivalent	辞書や慣用表現として、認められている定型的な等価表現を使用する技法である。	お気の毒 ⇒ sorry for you ※和英辞書に記述あり。
Generalization	一般的・中立的な上位概念の用語に置き換える技法である。	着物 ⇒ clothes
Particularization	具体的・精密な下位概念の用語に変換。	花 ⇒ cherry blossom
Description	原文の用語や表現をその形態や機能の解説に変換。	炬 燐 ⇒ the warm sunken fireplace with its wadded covering
Adaptation	目標文化において機能的に類似した別の文化的要素に変換。	将棋 ⇒ chess
Reduction	原文に含まれる情報項目を意図的に削除。	香車 ⇒ 無し

表 2 DMIS (Bennett 1986/1993 を再定義)

DMIS	翻訳テキストの記述的特徴	読者の状態
Denial	語彙・記述が存在しない。	認知不能
Minimization	目標文化における既知の概念のみで構成されている。	同化や自文化視点
Acceptance	目標言語の規範から逸脱した語彙や、異国の事物である旨の明示がある。	表層的な差異の認識
Adaptation	目標言語の規範から逸脱した語彙に加え、その意味や機能を補足する情報と共に記述されている。	文脈的理解・視点の転換

図 1 翻訳技法と DMIS 段階のクロス集計

翻訳技法	DMIS	Minimization	Denial	Adaptation	Acceptance
Reduction	0	32	0	0	
Literal translation	15	0	0	3	
Generalization	38	1	0	0	
Established equivalent	124	0	0	2	
Description	24	0	1	2	
Borrowing	0	0	0	34	
Amplification	1	0	16	1	
Adaptation	9	1	0	0	

図 2 調整済み標準化残差ヒートマップ

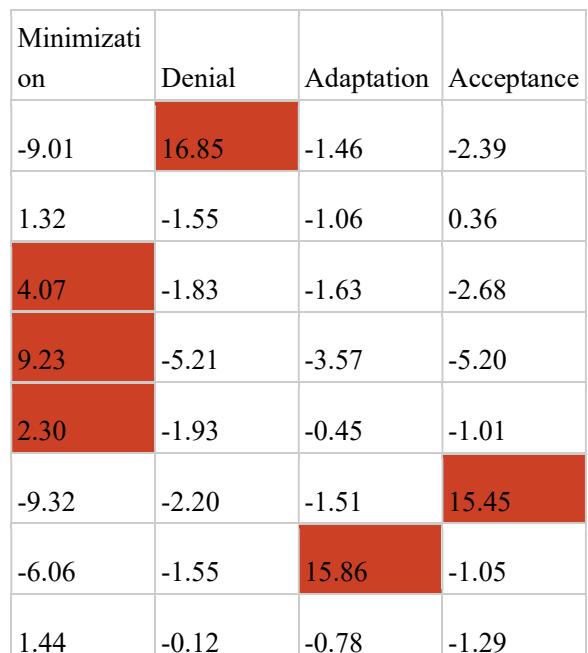


表 3 DMIS (読者に体験させたい理解の深さ) と翻訳技法の対応表

DMIS	翻訳技法
Denial	Reduction
Minimization	Established equivalent、Description、Generalization、(Adaptation)、(Literal translation)
Adaptation	Amplification
Acceptance	Borrowing、(Literal translation)

3. 主要参考文献

- 夏目漱石.(1914). 『こゝろ』. 岩波書店.
- NATSUME, SOSEKI. (1941). KOKORO. (I. SATO, TRANS.) HOKUSEIDO PRESS.
- NATSUME, SOSEKI. (1957). KOKORO. (E. McCLELLAN, TRANS.) REGNERY PUBLISHING.
- BENNETT, M. J. (1986). A DEVELOPMENTAL APPROACH TO TRAINING FOR INTERCULTURAL SENSITIVITY. INTERNATIONAL JOURNAL OF INTERCULTURAL RELATIONS, 10(2), 179-196.
- BENNETT, M. J. (1993). TOWARD ETHNORELATIVISM: A DEVELOPMENTAL MODEL OF INTERCULTURAL SENSITIVITY. IN R.M. PAIGE (ED.), EDUCATION FOR THE INTERCULTURAL EXPERIENCE (2 ED., PP. 21-71). INTERCULTURAL PRESS.
- MOLINA, L., & HURTADO ALBIR, A. (2002). TRANSLATION TECHNIQUES REVISITED: A DYNAMIC AND FUNCTIONALIST APPROACH. TRANSLATORS' JOURNAL, 47(4), 498-512.